

道の駅「遠野風の丘」(岩手県遠野市)

新たな地域の拠点形成となる 「道の駅」を目指して

～他には無い新しい「道の駅」の知恵がポイント～



菊池 太一

岩手県遠野市環境整備部 ハブ遠野整備推進室長



はじめに

道の駅は、市町村が設置母体となって首長が登録を申請し、各駅が主体的に運営する公的施設です。このため地域の特色を生かす工夫の中で、具体的な運営は各駅に任されています。特徴ある個性的な道の駅が人気を集める一方で、全国で道の駅の質にバラつきが生まれ、ともすれば格差さえ散見されています。

これからは、いろいろな意味で成功している道の駅の好事例を共有し、情報交換や交流を通して道の駅同士が切磋琢磨する姿勢が、さらなる発展、充実に欠かせません。

そのためにも、今年2月の重点「道の駅」制度における全国モデル「道の駅」、重点「道の駅」、重点「道の駅」候補の選定は、「道の駅」に関する関係者にとって情報の共有と「道の駅」同士の連携のうえで、非常に良い場が出来たと思っています。

全国各地には従来から、北海道地区、東北、関東、北

陸、中部、近畿、中国、四国地区、九州・沖縄の9ブロックに「道の駅」連絡会がありました。

しかし、全国組織がないという事で、平成24年12月17日に岩手県遠野市において設立総会を開催し、全国組織として全国「道の駅」連絡会が設立されました。全



イベントに集まるお客様で大賑わいの広場

国「道の駅」連絡会の業務はこの接着剂的な役割を果たすことにあつて考えています。

全国「道の駅」連絡会の初代会長には、岩手県遠野市長が選任されたことを受け、東北「道の駅」連絡会事務局と私が約3年間、全国「道の駅」連絡会事務局の役割を果たしてきました。

2 「道の駅」の役割と規模

道の駅は「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」の3つの機能を持つことが基本ですが平成16年10月の新潟県中越地震で「防災機能」が注目され、特に、3.11東日本大震災以降は「防災機能」についても、その必要性について議論が交わされてきています。

国土交通省は、昨年8月に初めて全国年間売上額約2,100億円（H23）、全国年間購買客数約2億2,000万人（H23）、売上高は大手コンビニチェーン並の規模となっていると発表しました。

一部のマスコミ等では、売上額を前面に出している「道の駅」がとりざたされていましたが、良い「道の駅」は売上額が多だけでなく、地域と連携し、いかに地域振興に取り組んでいるかが重要です。道の駅はその多くが地方にあり、例えば過疎化に対応できる「キラリと光る小さな道の駅」が地方では必要だと思っています。

「道の駅」を熟知しているという人でも、「道の駅」という単語一つで全体をくくってしまうことがあります。



広い店内にはたくさんのお客様で賑わう

「道の駅」を考えるときには、少なくとも小規模の道の駅、中規模の道の駅、大規模の道の駅の3種類の施設規模で考えなくてはならないのではないのでしょうか。施設規模によってその地域に合った、その地区でしか出来ない役割を果たしている「道の駅」が、全国各地で奮闘しているのです。

3 遠野風の丘の位置と事業内容

岩手県遠野市は、北上高地の中南部に位置し、東は釜石市と大槌町に、南は奥州市と住田町に、西は花巻市に、北は宮古市に接しています。市役所から県都盛岡へ約70km、仙台へ約180km、東京へ約530kmの距離に位置し、人口は約2万8,000人で農業が基幹産業の小さな観光都市です。

幹線交通網として、花巻市と釜石市を結ぶJR釜石線及び国道283号が市域を東西に横断するほか、北上市以西方面から大船渡市を結ぶ国道107号、住田町から宮古市方面を結ぶ国道340号、盛岡市方面を結ぶ国道396号他、釜石市から秋田市を結ぶ総延長211kmの「東北横断自動車道釜石秋田線」の東和宮守間（23.7km）が平成24年11月に開通し、本年中に宮守遠野間（9km）が供用開始の予定でいます。

「道の駅」遠野風の丘は、国道283号沿いの遠野インターチェンジ近郊に位置し



眺望がすばらしい展望デッキからの眺め



多種多様なイベントを定期的に開催し賑わうホール

ています。

遠野風の丘は、平成 10 年 6 月 30 日から営業を開始していますが、平成 11 年 8 月 27 日に岩手県で 17 番目の認定を受け、「道の駅」遠野風の丘として営業をしています。

運営主体は、一般社団法人遠野ふるさと公社が担い「地場産品の開発研究及び普及」「地場産品の宣伝及び販売促進」「地場産業の人材確保及び育成」「公共施設の管理運営」の事業を展開しています。

「道の駅」遠野風の丘は、開業してから 16 年になりますが、その間の入込客数は年間 100 万人前後を継続しており、年間販売額約 6 億 2,000 万円から 7 億 6,000 万円の間を推移しています。

4 再整備計画と今後の展望

「道の駅」遠野風の丘は、幸いにも県内だけでなく東北でも人気上位の「道の駅」として評価されています。これは、当時の「道の駅」遠野風の丘の整備を担当した市職員や駅長等をはじめとした多くの関係者が、十分に議論したことを具現していったからだと思っています。

今後の「道の駅」遠野風の丘の再整備計画では、ハードだけでなくソフトの議論こそが非常に重要であると痛感しています。

最近、他県から道の駅の整備計画について



遠野風の丘シンボル「スパイラルマグナス風車」
(次世代型の風力発電装置 風車直径 11.5m、発電出力 19kw、
タワー高さ 12.5m)



復興を支援し安くて新鮮な魚介類を提供する漁師の店
(大船渡の鎌田水産)



道の駅正面を飾る「花の丘」

て、「道の駅」遠野風の丘に視察が多く来ますが、コンサルタント会社が入っている場合が多いです。

当市でも、コンサルタント会社も一部は参考にしますが、コンサルタント会社に頼るのみではなく、ノウハウを蓄積している現場サイドの人達を中心に検討していきたいと思っています。

『他には無い遠野でしかできない、遠野ならではの戦略と新しい「道の駅」の知恵』を真剣に考え、検討していく事が再整備計画へのポイントと思っています。

先般、重点「道の駅」において、東北「道の駅」ブロック協議会が開催されました。これは、「道の駅」等が行う取り組みについて広く周知するとともに、関係機関が連携して当該取り組みの実現に向けた支援を行うことを目的として協議を行うものです。

当市でも、全国モデル「道の駅」に選定されたことを機会に遠野風の丘の再整備計画について、国、県と連携して検討会を開催することで準備を進めていましたが、このブロック協議会の考え方と類似していることから、早速に検討会を開催しています。

平成 30 年度には東北横断自動車道釜石秋田線の全線開通及び国道 340 号立丸峠トンネルの完成が見込まれます。それを視野に、新たな地域の拠点となる「道の駅」を目指し検討会を開催する予定です。その主な検討項目は、次のとおりです。

(◆ハード ●ソフト)

◆災害時における緊急避難機能を備えた防災施設（遠野市後方支援資料館の整備。）

◆遠野風の丘の交通インフラ及びその周辺を含めた整備計画の検討。

◆横断道本線から「道の駅」遠野風の丘への誘導標識の設置。

◆国道 340 号立丸峠トンネルの完成を見込んだ遠野風の丘等への誘導標識の設置。

●六次産業加工施設整備の検討。

◆国、県、市の三者による整備計画に係る連絡調整会議の実施。

●有識者等における遠野風の丘あり方検討会と市民等によるアイデアコンペの実施。

◆●「道の駅」遠野風の丘建物修繕計画の策定。（現況施設のリフレッシュ化）

●全国モデル「道の駅」ロゴマーク三ツ星使用による遠野風の丘の誘客活動の展開。

◆●その他、「道の駅」遠野風の丘の機能充実に関する視察研修の実施。

5 最後に

国土交通省は昨年 8 月に『「道の駅」による地方再生の拠点の形成』として農林水産省、経済産業省等を含む省庁が、横断的に道の駅の政策に取り組むと発表しました。

我々、地方の「道の駅」を所有する小さな自治体では強く共感するとともに、大きな期待をしています。

重点「道の駅」制度も含め、新しい「道の駅」を目指すためにも、関係各位のご協力とご支援をお願い申し上げます。



展望デッキから SL を眺める大勢の観光客